

2022年度満足度調査(英コミ)

検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学修成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率61.9%】(前年度83%)

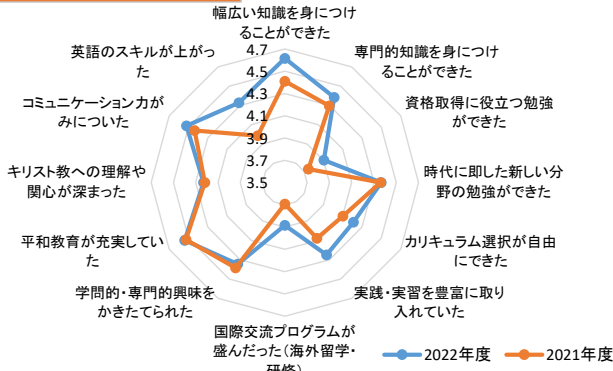
【カテゴリ毎の満足度】

各数値の基準

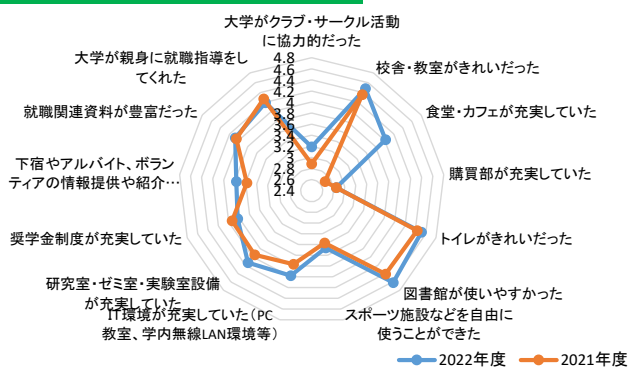
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらともいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

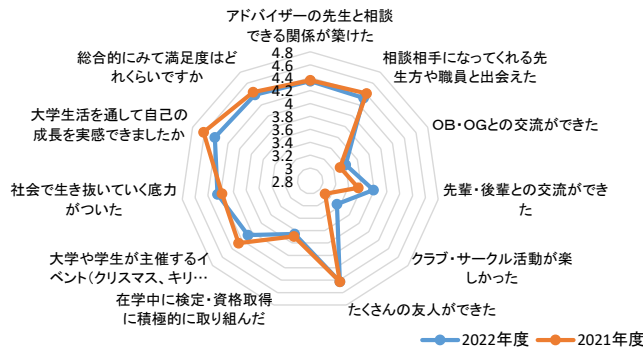
カリキュラムの適切性



施設・設備・制度に関する満足度

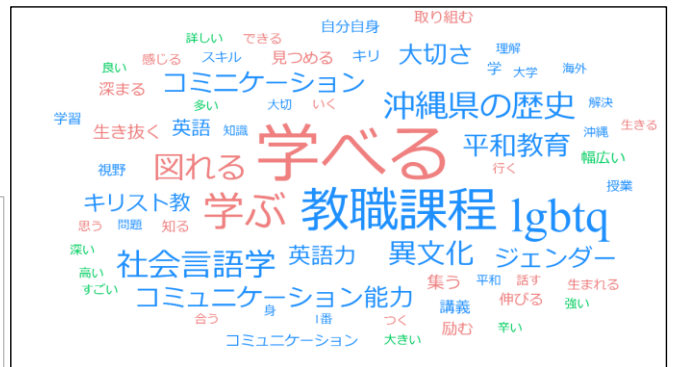


大学生生活に関する満足度



【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】

12項目中、前年度より上がったのが11項目、下がったのが1項目で、当該カテゴリの満足度は高いといえる。前年度よりプラスに伸びており改善している項目が多くみられる。前年度からの変化率が5%を超える項目は次の1つであった。

- ・国際交流プログラムが盛んだった(5.2%)

【施設・設備・制度に関する満足度】

13項目中、前年度より上がったのが10項目、下がったのが2項目、変更なしが1項目で、当該カテゴリの満足度は高いといえる。変化率が5%を超える項目は4つであった。

- ・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった(10.7%)
- ・食堂・カフェが充実していた(49.3%)
- ・IT環境が充実していた(PC教室、学内無線LAN環境等)(5.6%)
- ・下宿やアルバイト、ボランティアの情報提供や紹介(5.4%)

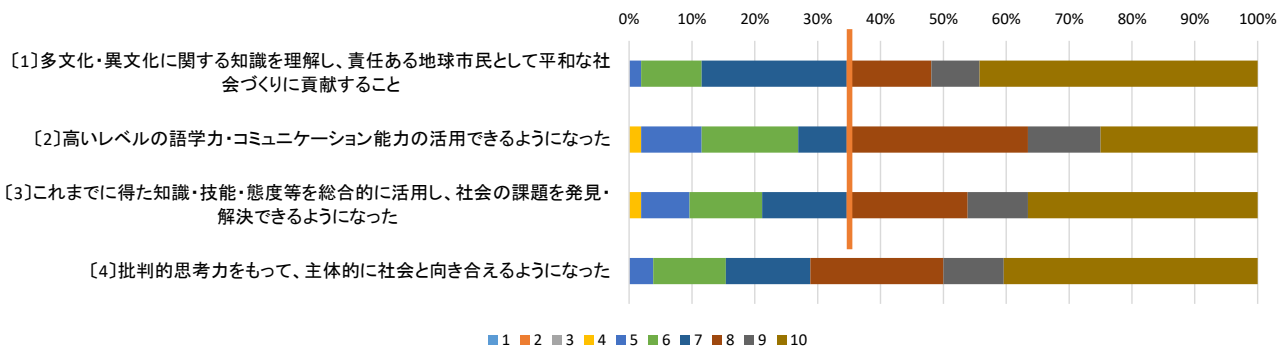
昨年度の満足度が非常に低かったため、その分が回復してきたと考えることもできるが、学内での別調査では施設・設備に対する要望が多数多く寄せられていることを考慮すると、今回の結果に満足することなく、今後の対応が重要と思われる。

【大学生生活に関する満足度】

11項目中、前年度より上がったのが4項目、下がったのが6項目で、変更なしが1項目で、当該カテゴリの満足度はあまり変わらない。変化率が5%を超える項目は次の2項目であった。

- ・先輩・後輩との交流ができた(6.7%)
- ・クラブ・サークル活動が楽しかった(7.9%)

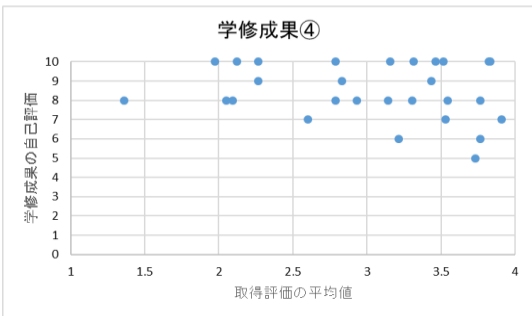
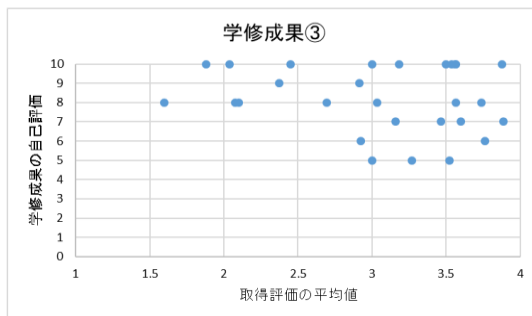
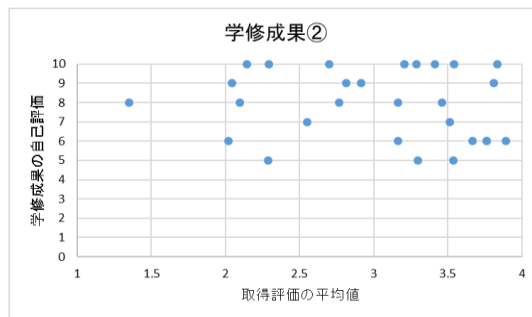
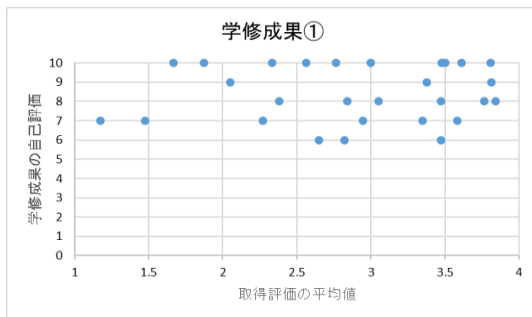
学修成果の自己評価



学生に対し本学で定める学修成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

上のグラフから、学修成果[1][2][3]において評価8以上の割合が約65%と同じであることがわかる(オレンジ線)。学修成果[4]はさらにその割合が大きく、学生の自己評価は総じて高いといえる。

特に学修成果[4]は4以下で自己評価している学生が全くおらず、学生にとって最も習得度を感じられる項目と思われる。



この散布図は、縦軸が学生による学修成果の自己評価(10段階)で、横軸が各学生の成績の平均値を表しています。この平均値は、各学修成果に紐付けられている科目の成績を集計しており、これにより学修成果毎の自己評価(主観的データ)と、実際の成績(客観的データ)との関連をみることができます。

上の散布図から、すべての学修成果において、点の位置に規則性がなく相関があるとはいえない。また、相関係数を算出したところ、6つの学修成果の相関係数は0.02~0.08の範囲にあり、0.4以上(もしくは-0.4以下)が相関有りだとされる中で、今回の結果は数値的にも相関が全くないことが確認できる。つまり、学生の取得する成績は、学生の「自分ができるようになった」という自己評価に結びついていないといえる。

そのため、成績以外で、客観的評価としてのマイルストーンを学科で議論する必要があるだろう。